

INFORMATION

【期間：平成28年】

北陸実験動物研究会第20回総会・第53回研究会

北陸実験動物研究会は、北陸3県の実験動物を用いている研究者、技術者および実験動物を取り扱う企業の情報交換の場として毎年数回開催されております。今回は、6月4日（土）13時00分より医学類G棟の第4講義室で開催予定で、企業からお一人、実験動物を用いた研究の第一線でご活躍されるお二人の先生にご講演いただくことになりました。皆様お誘いあわせの上、ぜひご出席いただきますようお願いいたします。

プログラム

維持会員ニュース

「基礎医学研究施設に於ける器材メーカーの役割 ～飼育従事者と動物に配慮した製品のご紹介及び会社説明」

テクニプラスト・ジャパン(株) 山下真由 様

特別講演 「Soxヘテロ変異の疾患モデルへの応用」 東京医科歯科大学 実験動物センター センター長/教授 金井正美 先生

「マウスミュータント系を用いた生殖器形成の解明の最前線：性差は如何に制御されるか」

和歌山県立医科大学 先端医学研 遺伝子制御学研究部 教授 山田 源 先生

連絡先：金沢大学学際科学実験センター 実験動物研究施設 TEL：076-265-2460 FAX：076-234-4240

ADRC (Asian DNA Repository Consortium) meeting

日時：平成28年6月6日（月） 13:00～16:00

場所：医学類D棟3階 e-ラーニング室

参加者：ADRCメンバーおよび学内研究者

内容：アジア人類基層集団希少試料（Asian DNA Repository）の管理、ならびに遺伝的多様性研究への活用に関する討議などを行いました。

問合せ先：金沢大学医薬保健研究域医学系 革新ゲノム情報学 田嶋 敦

TEL：076-265-2719 E-mail：atajima@med.kanazawa-u.ac.jp

第7回MRTプログラム・リトリート

第7回MRTプログラム・リトリートを開催。MRTプログラムとはMedical Research Trainingの頭文字をとったプログラムのことで、明日の医療を開拓する人材（研究医）を育成することをミッションとしている。このプログラムは、医学類の正式科目と並行して、希望する学生が授業の空き時間や夕方以降、休暇期間を利用して、各研究室で行われている研究・ゼミナール・論文講読会等に参加するものである。今回は第7回目のリトリートで今年度としては1回目となる。MRTプログラム参加学生・関連学生、教員スタッフ、興味のある方々に広く開放して日頃の成果や今後の抱負を語りあう会となる。

日時：2016年6月17日（金）17：30～19：30 場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

主催：医学類教育委員会

血管分子生物学（山本） TEL：076-265-2181 E-mail：yasuyama@med.kanazawa-u.ac.jp

第27回日本臨床寄生虫学会大会

日本臨床寄生虫学会の第27回全国大会が、6月18日（土）に金沢で開催されます。一般講演では、アニサキス症、蟯虫症、糞線虫症、日本海裂頭条虫症、無鉤条虫症、肺・肝吸虫症、幼虫移行症、トキソプラズマ症など多様な寄生虫症例が検討される他、以下の特別講演・ICD講習会を企画しております。

大会長：所 正治（金沢大学医薬保健研究域医学系寄生虫感染症学） 大会ホームページ：<http://www.parasitology.jp/pg146.html>

会期：2016年6月18日（土） 会場：石川県政記念 しいのき迎賓館（受付8:00～、大会8:50～16:10）

大会特別講演 ■教育講演「臨床寄生虫学の視点」平成28年6月18日（土曜日）13:00～14:00

■サテライト講演：第233回ICD講習会 テーマ「日和見感染症の予防・診断・治療」17:00～18:30
会場 十全講堂（金沢大学宝町キャンパス）

ICD講習会（資格更新点数対象）としての受講には、事前登録が必要です。

ICD制度協議会のICD講習会申込みをご参照ください。<http://www.icdjc.jp/>

【当日参加費用】学生3,000円、一般6,000円

神経解剖学セミナー

演題：内在性幹細胞による脳梗塞の再生医療

演者：松山知弘 先生（兵庫医科大学先端医学研究所 神経再生研究部門 教授）

日時：平成28年6月29日（水） 18:00～19:30

場所：金沢大学医学類 第2講義室

問い合わせ先：金沢大学医薬保健研究域医学系 神経解剖学（解剖学第三） 堀 修

TEL：265-2162 E-mail：osamuh3@staff.kanazawa-u.ac.jp

松山先生は、これまでにマウス脳梗塞後の脳血管ペリサイトがリプログラミングを受けて多能性幹細胞になること、更にそれらが神経細胞、アストロサイト、ミクログリアなど脳内のほとんどの細胞に分化することを報告されました。今回のセミナーでは、ペリサイトが実際に脳梗塞後の新たな治療標的になり得ることを発表して頂きました。

第31回生命工学トレーニングコース「遺伝子工学基礎技術コース」

学際科学実験センターでは、毎年3回「生命工学トレーニングコース」を開催しておりますが、本年度も「遺伝子工学・基礎技術コース」（遺伝子研究施設担当）を開催いたします。今回は、基礎的な遺伝子工学技術に加え、「動物細胞への遺伝子導入法」を利用した先進的遺伝子工学技術の習得を目的とします。

<トレーニングコース>

日時：2016年7月12日（火）～7月15日（金） 場所：学際科学実験センター 遺伝子研究施設

対象：大学、病院、試験研究機関、民間企業の研究者、技術者および大学院生等

連絡先：学際科学実験センター 堀家慎一 TEL：076-265-2775 E-mail：sihorike@staff.kanazawa-u.ac.jp

革新ゲノム情報学セミナー

日時：平成28年7月29日（金） 17:00～18:30

場所：医学図書館2階 十全記念スタジオ

演題：Left-right asymmetry of the rodent hippocampal synapses and its implications for functional laterality of the brain.

演者：篠原良章 先生（理化学研究所 脳科学総合研究センター）

内容：ラット海馬神経の構造的・機能的な左右非対称性に関する最新の知見をご講演いただきました。非対称性を生み出す内的・外的因子や、左右差の生理的意義などについてもご紹介いただきました。

連絡先：革新ゲノム情報学 田嶋 敦（TEL：265-2715 E-mail：atajima@med.kanazawa-u.ac.jp）

第27回 日本臨床化学会東海・北陸支部総会 第35回 日本臨床検査医学会東海・北陸支部例会 連合大会

開催日：平成28年7月30日(土) 10:00～15:30 会場：石川県立音楽堂交流ホール 大会長：和田 隆志(金沢大学)

参加費：2,000円(学生は500円、学生証を提示)

テーマ：臨床検査：臨床への新たな視点

内容：一般演題 16題

ランチョンセミナー 1題

特別講演 1題

「哺乳類体内のD型アミノ酸について－遊離型と結合型」 本間 浩(北里大学)

シンポジウム「バイオマーカーの進歩」 4題

「肝疾患診断における新規バイオマーカーの臨床的意義」 井上 貴子(名古屋市立大学病院)

「動脈硬化と心血管リスクを評価するバイオマーカー」 北川 文彦(藤田保健衛生大学病院)

「白血病のバイオマーカー(検査室における活用と運用について)」 梶浦 容子(名古屋大学医学部附属病院)

「新しいエリスロポエチン阻害因子：抗エリスロポエチン受容体抗体の発見とその特性」 原 章規(金沢大学附属病院)

連絡先：長原三輝雄(金沢大学附属病院検査部 TEL 076-265-2007)

今回は、メインテーマを「臨床検査：臨床への新たな視点」と題し、特別講演には北里大学薬学部生体分子解析学教室 本間 浩教授を講師にお迎えし、シンポジウムでは「バイオマーカーの進歩」を取り上げて企画しました。

また、その他にもランチョンセミナー 1題と一般演題16題を予定しております。

神経分子標的学セミナー

演題：無いものねだりの中枢神経再生戦略と機能再建

演者：郡山恵樹 先生(鈴鹿医療科学大学院薬学研究科 中枢神経薬理学 准教授)

日時：平成28年8月8日(月) 18:00～19:30

場所：金沢大学医学類 第2講義室

問い合わせ先：金沢大学医薬保健研究域医学系 神経解剖学(第3解剖) 堀 修

Tel: 265-2162, E-mail: osamuh3@staff.kanazawa-u.ac.jp

郡山先生は、これまで再生能力を示す新生期哺乳類や魚類の視神経に注目して、その再生期間の発現制御に関わる機構や分子の同定、さらにメカニズムの解明に取り組んで来られました。今回、完全長の視神経再生と機能再建に成功した研究成果を中心に、最近のデータを紹介いただきました。

第4回日本アミロイドーシス研究会学術集会

開催日：2016年8月19日(金) 会場：KKRホテル東京 大会長：山田正仁

学術集会事務局：金沢大学医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学(神経内科学)

TEL: 076-265-2293 E-mail: amyloidosis@med.kanazawa-u.ac.jp URL: <http://k-con.co.jp/4amyloid.html>

内容：本学術集会では、「アミロイドーシスの分子機構と新規治療への展望」をテーマとして、本領域の研究や診療の進歩を学びその克服をめざして討論を行います。

特別講演：Central nervous system involvement in patients with ATTR amyloidosis

教育講演：アミロイドーシスを疑う、診断する

教育講演：ALアミロイドーシス～診断と治療のUPDATE～

シンポジウム1：アミロイドーシスの分子機構

シンポジウム2：アミロイドゲネシスを標的とした治療法の開発

第10回極地と高山帯の菌学国際シンポジウム

本シンポジウムは極地および高山帯の菌学に関する唯一の国際会議である。極地および高山帯の菌類を専門とする研究者が一同に介して研究発表と合わせて開催地の菌類観察会を実施し、開催地の菌類相の解明に貢献する。1980年にアラスカ最北都市バローで第1回の会議とフィールド調査が行われ、以来スイス、フィンランド、グリーンランド、ロシア、フィンランド、フランスで4年に1回開かれている。今回はアジア地域では初めての開催となる。日本の中でも、高山植物の調査が最も古くから行われ、高山の菌類調査が継続的に行われてきた白山で菌類調査が行われ、前日に金沢で公開シンポジウムと一般演題の発表が行われる。大会長である産総研の星野保大会長から日本菌学会の一員である申請者に実行委員長を依頼されたものである。現在、実行委員長は理工研究域の都野准教授に交代したが、実行委員の一人としてシンポジウムの成功に向かって努力している。

開催日：8月29日(月)～8月31日(水)

開催場所：金沢(金沢大学自然科学本館ワークショップ1号室)、白山

連絡先：福井総合病院 病理診断科 河原 栄 TEL：076-222-7549 E-mail：ei@kawahara-fam.jp

第271回 北陸外科学会

平成28年9月3日(土)に、第271回北陸外科学会を金沢大学宝町キャンパス医学類G棟にて開催することとなりました。本会には、北陸3県の心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科等の医師が一同に会し、厳選された多くの研究発表に対する議論が行われるものと予想されます。

会期：平成28年9月3日(土)

会場：金沢大学宝町キャンパス 医学類G棟

会長：竹村博文(金沢大学医薬保健研究域医学系先進総合外科学 教授)

事務局：金沢大学医薬保健研究域医学系先進総合外科学教室内

第271回北陸外科学会事務局 担当 木村圭一 TEL：076-265-2830 FAX：076-222-6833

超然プロジェクト講演会

日時：10月11日(火) 17:00～18:00

場所：十全記念スタジオ 金沢大学医学図書館2階

梶村 真吾 Associate Professor, UCSF Diabetes Center, Eli and Edythe Broad Center of Regeneration Medicine and Stem Cell Research, Department of Cell and Tissue Biology, University of California, San Francisco

「脂肪細胞のエンジニアリングと肥満治療への展望」

ほ乳類には二種類の形態的・機能的に異なる脂肪細胞(白色脂肪細胞と褐色脂肪細胞)が存在する。白色脂肪細胞が主に余剰エネルギーの貯蓄庫として機能するのに対し、褐色脂肪細胞は発熱によってエネルギーを消費し、体温の保持に重要な役割を持つ特殊な細胞である。近年の研究から、ヒト成人においても予想以上に多くの褐色脂肪が存在することが明らかになり、その生体内における役割と肥満治療への可能性に注目が集まっている。

褐色脂肪には二種類の細胞群：胎児期にすでに細胞運命が決定している「既存型」と、成人期において様々な環境要因(例えば長期の寒冷刺激など)により白色脂肪細胞から分化誘導されるベージュ細胞と呼ばれる「誘導型」の熱産生細胞が存在する。近年の研究から、ヒト成人に存在する褐色脂肪は、ベージュ細胞に近い性質を持つことが分かってきた。本セミナーでは、褐色脂肪細胞とベージュ脂肪細胞の発生・分化のメカニズムと生理作用に関わる最近の知見を中心に紹介したい。

第21回 日本神経感染症学会総会・学術大会

開催日：平成28年10月21日(金)～22日(土)

開催場所：金沢東急ホテル

連絡先：金沢大学医薬保健学総合研究科 脳老化・神経病態学(神経内科学)

TEL：076-265-2298 E-Mail：n-infect21@med.kanazawa-ac.jp <http://www.n-infect21.jp/index.html>

本学会は神経系の感染症を専門に扱う、わが国唯一の学会です。対象は、ウイルス、細菌、真菌、寄生虫のような病原体による感染症から、プリオン病のような蛋白異常凝集・蓄積を本態として個体間で伝播する疾患までさまざまです。

第21回の本学術大会では、神経感染症の克服をめざして「神経感染症の分子病態解明と治療法開発の新展開」をテーマに掲げ、感染・伝播の分子機構の解明から、それに基づく新たな治療法の開発まで、神経感染症の研究や診療の最近の進歩や今後の方向について討議いたします。ホットなトピックスから神経感染症の基礎から学ぶことができる教育セミナーまで、さまざまな企画をご用意いたします。